

慶應義塾大学文学部

3つの方針

【人文社会学科】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

文学部（人文社会学科）は、慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、「文（ことば）」にかかわる広大な領域を対象として、創立者福澤諭吉の「実学」の精神に基づき、実証的に真理を解明し問題を解決してゆく科学的な姿勢と知識および能力を培うことを目標とする。

加えて、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目（各専攻）に関するそれぞれの方針のもとで、所定の要件を満たしたと認められる学生に対して、第2学年進級時に定められる所属専攻に応じて、学士（哲学）、学士（美学）、学士（史学）、学士（文学）、学士（図書館・情報学）、学士（人間関係学）のいずれかの学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

- (1)多様な文化や地域につながる幅広い教養を持ち、それを日本語や外国語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。
- (2)人文社会科学の学術的な知識と、情報収集能力を身につけたうえで、論理的な思考を行い、効果的なプレゼンテーションを行う力。
- (3)社会の中で人文社会科学を学ぶことの意義を自覚し、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を、ふさわしい方法で行う力。
- (4)学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。あるいは、卒業試験において、同等の内容を提示する力。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（人文社会学科）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1)基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。
- (2)自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目、実験科目、フィールドワークなどにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3)知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本学部の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

- (1)多様な文化や地域につながる幅広い教養を持ち、それを日本語や外国語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。
→ 総合教育科目、必修語学科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的スキル、着実な言語運用能力を身につけ、専門教育科目においてさらなる応用力を養う。
- (2)人文社会科学の学術的な知識と、情報収集能力を身につけたうえで、論理的な思考を行い、効果的なプレゼンテーションを行う力。
→ 総合教育科目、必修語学科目での学習成果をふまえ、専門教育科目において、所属する各専攻にかかわる基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。
- (3)社会の中で人文社会科学を学ぶことの意義を自覚し、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を、ふさわしい方法で行う力。
→ 演習や、専攻によっては実験、フィールドワークにかかわる科目を組み合わせることで履修することにより、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。また、専攻外の専門教育科目等の履修も可能とし、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。
- (4)学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。あるいは、卒業試験において、同等の内容を提示する力。
→ 主として専門教育科目の研究会において、各自の研究テーマを探究し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。卒業試験コースのある専攻においては、それぞれ定める科目において同等の能力を育成する。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

- このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な審査によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。

【人文社会学科・哲学専攻・学士（哲学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、西洋哲学に対する理解を深めながら批判的思考力を養い、論理的表現力を磨くとともに、現代社会の諸問題に対して普遍的かつ自律的な視点から考察できる人材の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（哲学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)： 古今の西洋哲学の文献を正確に理解できること。またそのために必要な語学力と批判的思考力を身につけていること。

資質・能力目標(2)： 口頭発表・ディスカッション・文章表現などにおいて説得力ある議論・論証ができるだけの論理的表現力を身につけていること。

資質・能力目標(3)： 人間とそれを取り巻く世界、人間が形成してきた知識（諸科学）、信念体系、価値体系について、原理的かつ総合的な反省的考察をおこなうことができること。

資質・能力目標(4)： 変転めまぐるしい現代社会の只中にあっても、問題に対してつねに原理的かつ批判的な考察を加えようとする合理的で自律的な思考主体・表現主体であると同時に、いかなる問題に直面しても、時流に流されることなく、つねに普遍的な観点に立とうとする行為主体であること。

資質・能力目標(5)： 学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科哲学専攻（学士：哲学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・

ポリシー)」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1)基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。
- (2)自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3)知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)： 古今の西洋哲学の文献を正確に理解できること。またそのために必要な語学力と批判的思考力を身につけていること。

→ 総合教育科目、必修語学科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能、着実な言語運用能力を身につけ、専門教育科目においてさらなる応用力を養う。

資質・能力目標(2)： 口頭発表・ディスカッション・文章表現などにおいて説得力ある議論・論証ができるだけの論理的表現力を身につけていること。

→ 総合教育科目、必修語学科目での学修成果をふまえ、専門教育科目において、哲学にかかわる基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標(3)： 人間とそれを取り巻く世界、人間が形成してきた知識（諸科学）、信念体系、価値体系について、原理的かつ総合的な反省的考察をおこなうことができること。

→ 演習にかかわる科目を組み合わせることで履修することにより、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。また、専攻外の専門教育科目等の履修も可能とし、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標(4)： 変転めまぐるしい現代社会の只中にあっても、問題に対してつねに原理的かつ批判的な考察を加えようとする合理的で自律的な思考主体・表現主体であると同時に、いかなる問題に直面しても、時流に流されることなく、つねに普遍的な観点に立とうとする行為主体であること。

→ 主として専門教育科目の「哲学研究会」および「卒業試験（卒業論文）」において、各自の研究テーマを探究し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

資質・能力目標(5)： 学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

→ 卒業論文を執筆するために、「哲学研究会」を必修科目として設置する。学生は自らの関心に

従って研究テーマを選択し、所属する研究会の担当教員による指導を受けることができる。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な審査によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。

【人文社会学科・倫理学専攻・学士（哲学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

倫理学専攻は、慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、古今東西の思想家たちとの対話を通じて人間の生き方を探究し、思想家の精神的創作活動の場としての文化の本質を問い、そして、近現代の自然観や生命観、人間観や社会観を問い直す能力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（哲学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)： 人間の生き方を探究する視点と方法を確立するために必要とされる、倫理学の主要理論と理論史に関する基本的な知識を習得している。

資質・能力目標(2)： 倫理学の主要文献を原語で正確に読解するために必要なレベルの外国語（原則としてドイツ語・フランス語・英語）を習得している。

資質・能力目標(3)： 多様な倫理思想・宗教思想についての理解を深め、人間の根底に迫るとと

もに、多文化社会における人間の生のあり方を反省する力。

資質・能力目標(4)： 科学技術の発展や環境破壊、戦争、グローバル化など、現代社会の身近な問題を手がかりにして、近現代の自然観や生命観、人間観や社会観を問い直す力。

資質・能力目標(5)： 倫理学上重要な理論とそれに関する先端的研究について、一定の知識を有している。

資質・能力目標(6)： 卒業論文において、人間の生き方や社会のあり方について考察すべき問いを自らの関心に従って選択し、先行研究をふまえながら、それに対する解答を首尾一貫して提示する力。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文は、次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である
2. 先行研究を踏まえている
3. 方法が目的に適っている
4. 内容が論理的で一貫している
5. 形式が学術論文として適切である

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科倫理学専攻（学士：哲学）は「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1)基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、多様な科目群を設置する。
- (2)自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3)知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)： 人間の生き方を探究する視点と方法を確立するために必要とされる、倫理学の主要理論と理論史に関する基本的な知識を習得している。

→倫理学の主要理論と理論史に関する基本的な知識を習得するための科目として、「倫理学概論」「西洋哲学倫理学史」（第2学年履修指定科目）を必修科目として設置する。

資質・能力目標(2)：倫理学の主要文献を原語で正確に読解するために必要なレベルの外国語（原則としてドイツ語・フランス語・英語）を習得している。

→ 倫理学の主要文献を原語で読解するための科目として、「哲学倫理学原典講読（独・仏）」（第2学年進級条件科目）を必修科目として設置する。より発展的な学習のため、「倫理学洋書講読」を設置する。

資質・能力目標(3)：多様な倫理思想・宗教思想についての理解を深め、人間の根底に迫るとともに、多文化社会における人間の生のあり方を反省する力。

→ 多様な倫理思想・宗教思想の理解を深めるための科目として、「日本倫理思想」、「東洋倫理思想」、「キリスト教概論」、「仏教学概論」（全専攻共通科目）を設置する。

資質・能力目標(4)：科学技術の発展や環境破壊、戦争、グローバル化など、現代社会の身近な問題を手がかりにして、近現代の自然観や生命観、人間観や社会観を問い直す力。

→ 現代社会の身近な問題を手がかりにして近現代の自然観や生命観、人間観や社会観を問い直すための科目として、「倫理学の課題」を必修科目として設置する。

資質・能力目標(5)：倫理学上重要な理論とそれに関する先端的研究について、一定の知識を有している。

→ 倫理学上重要な諸理論を詳細にわたって理解し、その先端的研究に触れるための科目として、「哲学倫理学特殊」を設置する。

資質・能力目標(6)：卒業論文において、人間の生き方や社会のあり方について考察すべき問いを自らの関心に従って選択し、先行研究をふまえながら、それに対する解答を首尾一貫して提示する力。

→ 卒業論文を執筆するために、「倫理学研究会」（第3学年進級条件科目、第4学年卒業要件科目）を必修科目として設置する。学生は自らの関心に従って研究テーマを選択し、所属する研究会の担当教員による指導を受けることができる。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1) 慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2) 先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3) 与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4) 現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5) 文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な考查によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。

【人文社会学科・美学美術史学専攻・学士（美学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、古今東西の美と芸術に関する様々な知識と研究方法を修得しながら、優れたコミュニケーション能力を有し、人間を尊重し、自らと他者を理解することによって多様な価値を認める深い人間性を養う。また、さまざまな分野でリーダーシップを発揮し、社会の各方面に貢献できる人材となることを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（美学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)： 美学、芸術学、美術史学、音楽学、アート・マネジメント等、美と芸術に関する各分野の学問に関して、本質的で幅広い知識と教養を身につける。

資質・能力目標(2)： 芸術の諸分野についての基礎的教養を身につけ、あわせてイメージやパフォーマンス等の非言語的対象を把握し、それを適切に言語化する基本的リテラシーを身につける。

資質・能力目標(3)： 美学や各芸術分野についての文献講読を通して、基本的な外国語・日本語（古典）の読解力を身につける。

資質・能力目標(4)： 研究テーマに応じて適切な情報の収集と分析を行い、科学的・論理的に思考し、批判的に考えることができる力。

資質・能力目標(5)： 各研究会での研究・発表等の活動に積極的に参加し、適確な文章をもって、学問的な評価に耐えうる卒業論文を執筆する力。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科美学美術史学専攻（学士：美学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育法を組み合わせ教育を実施する。

- (1)美学・芸術学、美術史学と音楽学、アート・マネジメントなどの芸術諸分野にわたる多様な科目群を設置することで、美と芸術に関する基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指す。
- (2)自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目、フィールドワーク（美術館、博物館等における見学・調査）などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3)知的探求と実践力の育成のために、専攻の必修科目とともに、大学設置の専門教育科目を選択科目として履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)： 美学、芸術学、美術史学、音楽学、アート・マネジメント等、美と芸術に関する各分野の学問に関して、本質的で幅広い知識と教養を身につける。

→ 美学や芸術学、芸術の諸分野、そしてアート・マネジメントに関する概説と各論等、多様な授業を設置する。

資質・能力目標(2)： 芸術の諸分野についての基礎的教養を身につけ、あわせてイメージやパフォーマンス等の非言語的対象を把握し、それを適切に言語化する基本的リテラシーを身につける。

→ 芸術の諸分野に関する概論、概説、各論等に加え、主に第2学年を対象とした「芸術研究基礎」や「美学美術史学演習」において、基礎的な専門用語や概念を理解し、作品記述の方法を身につけることで、非言語的対象を言語化するための基本的リテラシーを養う。

資質・能力目標(3)： 美学や各芸術分野についての文献講読を通して、基本的な外国語・日本語（古典）の読解力を身につける。

→ 芸術の諸分野についての十分な学問的アプローチを可能にするため、外国語（英語・第2外国語）・日本語（古典）のリテラシーを身につけることを目的に、「原典講読」を必修科目として履修する。

資質・能力目標(4)： 研究テーマに応じて適切な情報の収集と分析を行い、科学的・論理的に思考し、批判的に考えることができる力。

→ 「芸術研究基礎」や「美学美術史学演習」において、基本文献や研究方法、資料の扱いなどを学び、「美学美術史学研究会」におけるディスカッションや研究発表の実践を通じて、情報収集の方法と分析、科学的な思考能力を養う。

資質・能力目標(5)： 各研究会での研究・発表等の活動に積極的に参加し、適確な文章をもって、学問的な評価に耐えうる卒業論文を執筆する力。

→ 第3、第4学年の学生は、必ず「美学美術史学研究会」を履修し、同研究会の担当教員の下で研究・発表を行い、第4学年の学生は卒業論文を執筆する。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な審査によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。

【人文社会学科・日本史学専攻・学士（史学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、歴史学を中心として広く様々な分野に即して学問の方法を学びつつ、特に日本史学の分野において、引き出した歴史情報を分析して新たな史実を実証的に掘り起こし、その成果を論理的に構成して発表する能力を培うことを目標とする。

そのため日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする日本語の卒業論文を執筆し、さらに卒業論文のテーマに関連する領域については包括的な専門知識を有し、その領域の研究に貢献をすることができる能力を培うことを目標とする。

加えて教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（史学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)： 通時代的な歴史像の把握の下に研究領域全般に関する知識を修得し、古文書などの史料から歴史情報を引き出すための史料批判を行い、史料を読解する力。

資質・能力目標(2)：学修の成果として、日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする卒業論文を執筆し、その領域の研究に貢献をすることができる力。

資質・能力目標(3)：生のデータの信頼性を確認した上で、それらを分析して論理的妥当性が認められる推論を導き出し、万人の納得を得られるような形でまとめ発表する力。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文（卒業試験）は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 史料の取り扱いが適切であり、方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科日本史学専攻（学士：史学）では、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、日本史の全体像を捉え、より深く理解するために「日本史概説」、「日本史特殊」、「日本史史料講読」、「古文書学」、「日本史演習」、「日本史研究会」によって専門的領域を学ぶとともに、「史学概論」、「東洋史学説」、「西洋史概説」、「考古学」、「民族学」から構成される日本史以外の学問領域についても学ぶことができるように、教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1)日本史の全体像を捉えるための概説や、個別の時代やテーマに関する理解を深めるための講義科目を設置する。
- (2)史料にアプローチし、学生が主体的に課題を見出し、その解決を目指すために、幅広く各時代の史料に関する基礎知識を講義することや、専門とする時代の史料を読み解く能力を磨く演習を行い、論文執筆の能力を養うための研究会を実施するなど、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3)歴史学の学問体系について学ぶために、「史学概論」や、日本史以外の歴史学の学問的方法を体験するための概説など、広く様々な分野の学問体系に触れるための科目を履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)：通時代的な歴史像の把握の下に研究領域全般に関する知識を修得し、古文

書などの史料から歴史情報を引き出すための史料批判を行い、史料を読解する力。

→ 日本史の全体像を捉えるための講義科目や、個別の時代やテーマに関する理解を深めるための講義科目を開講する。また、古代～近代の史料読解の基本をレクチャーする科目や、幅広く各時代の史料に関する基礎知識を講義する「古文書学」を必修科目とし、専門とする時代の史料を読み解く能力を磨く演習の機会を設ける。

資質・能力目標(2)： 学修の成果として、日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする卒業論文を執筆し、その領域の研究に貢献をすることができる力。

→ 論文執筆の能力を養うために、「日本史研究会」を設置し、自らが主体的に研究した内容を報告し、それに基づく討論を経験することで、その領域の研究に貢献をすることができる力を涵養することを目指す。

資質・能力目標(3)： 生のデータの信頼性を確認した上で、それらを分析して論理的妥当性が認められる推論を導き出し、万人の納得を得られるような形でまとめ発表する力。

→ 幅広く各時代の史料に関する基礎知識を講義する「古文書学」や、史料を読み解く「日本史演習」における授業によって培われた能力を活用し、自らが主体的に取り組む研究について発表を行う「日本史研究会」において、データに基づき論理的な推論を発表する能力を育成する。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な考査によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。

【人文社会学科・東洋史学専攻・学士（史学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状に対する内在的かつ客観的な視座、アジア・中東諸地域固有の言語をはじめとする外国語の運用能力、歴史学を中心とする人文社会科学の分野横断的な知見などを備え、それらをもとに多文化間の相互理解の促進に貢献できる人物の養成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（史学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)： アジア・中東諸地域の立場や価値観を尊重しながら、その歴史や文化、現状に向き合う視座を身につけている。

資質・能力目標(2)： アジア・中東諸地域固有の言語に関心を持ち、その運用能力の習得・向上を目指す姿勢を身につけている。

資質・能力目標(3)： 歴史学に加えて、隣接する人文社会科学の知見や手法もふまえて、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状を実証的かつ学際的な見地から理解する能力を身につけている。

資質・能力目標(4)： 学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を身につけている。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科東洋史学専攻（学士：史学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育法を組み合わせ教育を実施する。

- (1) アジア・中東諸地域に関する基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、総合教育科目、専門教育科目において、歴史学に加え、学際的な内容を含む多様な科目群を設置する。
- (2) アジア・中東諸地域の歴史と現状に関して自ら課題を発見し、その解決を目指す能力を身につけるため、主に専門教育科目において、事前学習型授業、プレゼンテーション、グループワーク、対話・議論型授業等、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3) アジア・中東諸地域に関する知的探究への動機づけと実践力を育成するため、必修語学科目および専門教育科目において、専門的な知識や技能を習得する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による指導評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)： アジア・中東諸地域の立場や価値観を尊重しながら、その歴史や文化、現状に向き合う視座を身につけている。

→ 主に専門教育科目において、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状に関する基礎的な知識および専門的な学識を修得し、時代により異なるアジア・中東諸地域の立場や価値観を尊重する力を養う。

資質・能力目標(2)： アジア・中東諸地域固有の言語に関心を持ち、その運用能力の習得・向上を目指す姿勢を身につけている。

→ 総合教育科目での学修成果をふまえ、必修語学科目のほか、専門教育科目において、上記の諸言語に対する関心と呼び起こし、その学修への意欲を高めるとともに、運用能力の向上を目指す。

資質・能力目標(3)： 歴史学に加えて、隣接する人文社会科学の知見や手法もふまえて、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状を実証的かつ学際的な見地から理解する能力を身につけている。

→ 他の史学系の専門教育科目の履修を求めることに加え、史学系以外の専門教育科目の履修を可能とすることにより、東洋史学以外の歴史学および歴史学以外の人文社会科学に関する知見や手法を修得する機会を設ける。

資質・能力目標(4)： 学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を身につけている。

→ 専門教育科目での学修成果をふまえ、同じく専門教育科目の「東洋史研究会」において、学生は自らが設定した研究テーマを主体的に追究するとともに、教員や他の学生とのディスカッションなどを通じて当該研究テーマに関する客観的な視点を取り入れながら、新たな展望の提示に挑む力を養う。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心

理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な考査によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。

【人文社会学科・西洋史学専攻・学士（史学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、西洋世界およびそこから強く影響を受けた地域の過去を学ぶことを通して、現代の「国際社会」の多くの側面を構成する価値観を理解するために十分な知識を獲得し、ひいては歴史学を通して現代社会の深層を見つめる知見と能力を得ることを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（史学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)： 西洋世界およびそこから強く影響を受けた地域の歴史についての包括的な知識を持ち、現代の「国際社会」を構成する多様な価値観を理解する力。

資質・能力目標(2)： 西洋史学の学術的な専門知識と、史料批判・読解などの歴史学の方法論を身につけたうえで、論理的な思考を行い、専門分野および社会における課題を導く力。

資質・能力目標(3)： 自ら情報を収集する力、それを学問的に分析するために必要な外国語力と方法論を鍛え、自ら設定した課題に取り組み、効果的なプレゼンテーションを行う力。

資質・能力目標(4)： 学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた学術的な展望を提示する力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科西洋史専攻（学士：史学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1)基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、外国語科目、歴史学の方法論を学ぶ科目、時代・地域を広くカバーする西洋史の概説的・専門的科目群を設置する。
- (2)自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3)知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)： 西洋世界およびそこから強く影響を受けた地域の歴史についての包括的な知識を持ち、現代の「国際社会」を構成する多様な価値観を理解する力。

→ 西洋世界の過去についての概説的な知識を得るために、総合教育科目ならびに「西洋史概説」の履修を通して、その中にある多様性や多重性への理解を深める。また、歴史学が人間の生の全ての面を対象とする学問であることを鑑みて、専攻領域の科目群を軸としつつも、他専攻の専門科目の履修を通じ、各自が興味と関心に合わせて自らの学際空間を設計して学習を進める。

資質・能力目標(2)： 西洋史学の学術的な専門知識と、史料批判・読解などの歴史学の方法論を身につけたうえで、論理的な思考を行い、専門分野および社会における課題を導く力。

→ 歴史学の理論と方法論の基礎を学び、歴史学そのものについて考える「史学概論」ならびに特定の時代・地域を個別テーマにもとづき探求する「西洋史特殊」の履修を通じて、高度な専門的学識や技能の習得を目指す。また、「日本史概説」および「東洋史概説」の履修を通して、より広い文脈の中での歴史への理解を深める。

資質・能力目標(3)： 自ら情報を収集する力、それを学問的に分析するために必要な外国語力と方法論を鍛え、自ら設定した課題に取り組み、効果的なプレゼンテーションを行う力。

→ 必修語学科目に加え、「原典講読」（英語）と「西洋史演習」（ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語のいずれか）の履修を通じて、専門的な研究文献を講読する力をつける。また、特定の地域・時代を専門的に研究するゼミナール形式の「西洋史研究会」を履修することで、学問研究の方法を実践的に学び、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。

資質・能力目標(4)： 学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の

成果をふまえた学術的な展望を提示する力。

→ 各自の研究テーマを探求し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。卒業論文の執筆を通じて、専攻で培った専門性や問題を解決する力を発揮し、論理的な思考と緻密な探究にもとづく自らの学術的な成果を表現する力を育成する。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1) 慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2) 先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3) 与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4) 現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5) 文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な審査によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。

【人文社会学科・民族学考古学専攻・学士（史学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、民族学、考古学及び関連諸分野に関わる研究史、理論、分析方法を学び、具体的な研究に取り組むことにより、諸事象及び諸問題について歴史を軸とした幅広い視点から実証的に探求し、論理的に理解できる能力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（史学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)： 民族学や考古学あるいはそれらの関連分野の研究において必要となる研究

史と理論に関する基礎的知識。

資質・能力目標(2)： 個別のフィールドにおいて具体的な研究を実施するために必要な、調査、分析、コミュニケーションの能力。

資質・能力目標(3)研究の成果を、研究発表として効果的にプレゼンテーションし、合わせて学術論文（卒業論文）として論理的にまとめる能力。

資質・能力目標(4)： 上記(1)～(3)のために必要な語学能力。

資質・能力目標(5)： 大学卒業後のより高度な専門研究あるいは実社会の生活において、能動的に問題を発見し分析・解決する実践的能力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. フィールドワークも含めて、その研究方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科民族学考古学専攻（学士：史学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1)基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、民族学、考古学、関連諸分野に関わる多様な科目群を設置する。
- (2)自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目、実習科目、フィールドワークなどにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3)知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

民族学考古学専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)： 民族学、考古学、あるいは関連分野の研究において必要となる研究史と理論についての基礎的知識。

→ 民族学、考古学、関連分野の基礎的知識を習得するための概論科目「考古学Ⅰ・Ⅱ」「民族学

I・II」「人類学概論I・II」「博物館学概論I」を設置する。また、民族学、考古学、関連分野の具体的な研究成果とその方法を学び、併せて学際的視野の習得を目指す、より専門性の高い科目群（「民族学考古学特殊」）を設置する。

資質・能力目標(2)： 個別のフィールドにおいて具体的な研究を実施するために必要な、調査、分析、コミュニケーションの能力。

→ フィールドでの調査方法、一次資料の分析方法を学び、調査に必要なコミュニケーション能力を高めるため、各種実習科目群（「民族学考古学研究法」「博物館学実習」）を設置する。また、フィールドにおけるより具体的な調査分析方法については、個別指導を行う演習科目群（「民族学考古学研究会」）において指導する。加えて、教員によって組織される国内外の野外調査等への参加も推奨する。

資質・能力目標(3)： 研究の成果を、研究発表として効果的にプレゼンテーションし、合わせて学術論文として論理的にまとめる能力。

→ プレゼンテーションとディスカッションによる問題解決を通し、論理的思考力と構成力、プレゼンテーション能力を養成するとともに、研究成果を卒業論文としてまとめることを目指す、個別指導演習科目群（「民族学考古学研究会」）を設置する。なお、プレゼンテーション能力を高めるための指導は、実習科目（「民族学考古学研究法」）でも行う。

資質・能力目標(4)： 上記(1)～(3)のために必要な語学能力。

→ 欧文献の講読を通して、民族学、考古学及び関連分野の理論と方法を学ぶ語学科目（「原典講読」）を設置する。

資質・能力目標(5)： 大学卒業後のより高度な専門研究あるいは実社会の生活において、能動的に問題を発見し分析・解決する実践的能力。

→ 専攻の専門教育のカリキュラム全体での学び、及び卒業論文の執筆を通してこの資質・能力を高めることを目指している。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な考查によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。

【人文社会学科・国文学専攻・学士（文学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、国文学・日本語学にかかわる諸領域を対象として、広い視野から着実に文学・言語を理解し、得られた深い知見に基づき、文化の構築や社会の発展に資するための表現力及び論理的構成力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（文学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)：国文学および日本語学、漢文学を中心に、学芸、習俗など広く日本文化の歴史と現在について専門知識を有し、厳密な研究方法を身につける。

資質・能力目標(2)：自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、独力でデータ・資料を収集し、オリジナルな分析・考察を行って課題を解決し、その成果を論理的・説得的に構成して自分のことばで発表できる。

資質・能力目標(3)：国文学・日本語学・日本文化を専門的に学び深く理解することを通して、それらと対照して異文化についても広く深く理解する視野をもつとともに、固定観念や偏見にとらわれず国文学・日本語・日本文化をも相対化してとらえることができる。

資質・能力目標(4)：大学で獲た知識や研究技法を基礎にして、生涯、学習を継続する姿勢をもつとともに、それらの知識・技法を、社会に出てから直面する多様な問題・課題を解決するために応用できる能力をもつ。

資質・能力目標(5)：学修の最終成果である卒業論文を独力で執筆できる。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすことが求められる。

1. テーマ・問題意識が明確でかつ独自性がある。
2. 先行研究を踏まえている。
3. データ・資料を適切に読解・分析している。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科国文学専攻（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1)基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。
- (2)自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目、調査、フィールドワークなどにおいて、学生が主体となる能動的な授業を実施する。
- (3)知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)：国文学および日本語学、漢文学を中心に、学芸、習俗など広く日本文化の歴史と現在について専門知識を有し、厳密な研究方法を身につける。

→ 総合教育科目、必修語学科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能、着実な言語運用能力を身につけ、専門教育科目において国文学・日本語学などについて、深い学びを可能にするための総合的学識・技術の獲得を目指す。

資質・能力目標(2)：自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、独力でデータ・資料を収集し、オリジナルな分析・考察を行って課題を解決し、その成果を論理的・説得的に構成して自分のことばで発表できる。

→ 総合教育科目、必修語学科目での学修成果をふまえ、専門教育科目において、国文学・日本語学に関する基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標(3)：国文学・日本語学・日本文化を専門的に学び深く理解することを通して、それらと対照して異文化についても広く深く理解する視野をもつとともに、固定観念や偏見にとらわれず国文学・日本語・日本文化をも相対化してとらえることができる。

→ 専門教育科目において、国文学・日本語学に関わる幅広い知識を身につけるとともに、専攻外の専門教育科目等の履修も可能とし、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標(4)：大学で獲た知識や研究技法を基礎にして、生涯、学習を継続する姿勢をもつとともに、それらの知識・技法を、社会に出てから直面する多様な問題・課題を解決するために応用できる能力をもつ。

→ 専門教育科目において、国文学・日本語学領域における最新の研究成果を知り、その知見・技術と現代社会との結びつきについて理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標(5)：学修の最終成果である卒業論文を独力で執筆できる。

→ 専門教育科目の研究会を中心に、言葉や文学についての議論や分析を基礎として各自の研究テーマを探求し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な審査によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。

【人文社会学科・中国文学専攻・学士（文学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、中国文化圏における「文（ことば）」にかかわる広大な領域を対象として、創立者福澤諭吉の「実学の精神」に基づき、実証的に真理を解明し問題を解決してゆく科学的な姿勢と知識および能力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（文学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

- 資質・能力目標(1)： 中国文化圏を中心とする多様な文化や地域につながる幅広い教養を持ち、それを日本語や中国語を中心とする外国語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。
- 資質・能力目標(2)： 中国文学・中国語学を中心とする人文社会科学の学術的な知識と、情報収集能力を身につけたうえで、論理的な思考を行い、効果的なプレゼンテーションを行う力。
- 資質・能力目標(3)： 社会の中で中国文学・中国語学を中心とした人文社会科学を学ぶことの意義を自覚し、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を、ふさわしい方法で行う力。

資質・能力目標(4)：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、中国文学・中国語学を中心とする専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文（卒業試験）は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科中国文学専攻（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1) 基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。
- (2) 自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3) 知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)：中国語圏を主とする多様な文化や地域につながる幅広い教養を持ち、それを日本語や外国語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。

→ 総合教育科目、必修語学科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能、着実な言語運用能力を身につけ、専門教育科目においてさらなる応用力を養う。

資質・能力目標(2)：人文社会科学の学術的な知識と、情報収集能力を身につけたうえで、論理的に思考し、効果的なプレゼンテーションを行う力。

→ 総合教育科目、必修語学科目での学修成果をふまえ、専門教育科目において、主に中国語文化圏にかかわる言語・文学等を中心とした基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標(3)：社会の中で人文社会科学を学ぶことの意義を自覚し、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を、ふさわしい方法で行う力。

→ 演習にかかわる科目を組み合わせることで履修することにより、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。また、専攻外の専門教育科目等の履修も可能とし、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標(4)：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

→ 主として専門教育科目の研究会において、各自の研究テーマを探求し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な審査によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。

【人文社会学科・英米文学専攻・学士（文学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、英語学、英文学、米文学の分野の学修と研究を通じて、英語、英米文学の専門的な知識と研究方法を身につけ、専門分野の教養を活かして社会に貢献する人材を育成することを目的とする。加えて、教育課程において定める要件を満たした学生に対し、学士（文学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)：日本語ならびに外国語（英語）を使用して正確な読解と適切な調査にもとづいた論理的な思考を展開し、他者と生産的な議論を行う力。

資質・能力目標(2)：外国語（英語）を使用して生産的な発信を行う力。

資質・能力目標(3)：英語という言語それ自体に対する関心・理解を深め、過去から現在に至る英語を使用した文化の特徴・歴史に関する知識を応用する力。

資質・能力目標(4)：英語を通じて異文化の他者と交流を持ち、共通の問題を解決していくための議論や実践をする基礎的な力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文（卒業試験）は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科英米文学専攻（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1)英語学、言語学、イギリス・アメリカ文学の基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。
- (2)自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目、実験、フィールドワークなどにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3)知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)：日本語ならびに外国語（英語）を使用して正確な読解と適切な調査にもとづいた論理的な思考を展開し、他者と生産的な議論を行う力。

→ 総合教育科目、必修語学科目、専門教育科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能、着実な言語運用能力を身につけ、専門教育科目においてさらなる応用力を養う。

資質・能力目標(2)： 外国語（英語）を使用して生産的な発信を行う力。

→ 総合教育科目、必修語学科目での学修成果をふまえ、専門教育科目において、英米文学専攻にかかわる基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標(3)： 英語という言語それ自体に対する関心・理解を深め、過去から現在に至る英語を使用した文化の特徴・歴史に関する知識を応用する力。

→ 演習やフィールドワークなどにかかわる科目を組み合わせることで履修することにより、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。また、専攻外の専門教育科目等の履修も可能とし、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標(4)： 英語を通じて異文化の他者と交流を持ち、共通の問題を解決していくための議論や実践をする基礎的な力。

→ 主として専門教育科目の研究会において、各自の研究テーマを探求し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な審査によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。

【人文社会学科・独文学専攻・学士（文学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提とし、高度で実践的なドイツ語運用能力の習得を前提に、ドイツ語・ドイツ語文学を中心とする広大で多彩なドイツ語圏諸文化現象の探究を通じて、流動化する国際社会においてよりよく生きるための教養と学識、倫理的判断力と実践的能力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める要件を満たした学生に対し、学士（文学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)： 文法構造の理解と基本的な語彙の習得を基盤に、四技能（読み、書き、聴き、話す）のバランスがとれたドイツ語運用能力を身につけ、これを通じてドイツ語母語話者との活発な異文化コミュニケーションを実践する力。

資質・能力目標(2)： ドイツ語および日本語による関連文献を通じて、ドイツ語学・文学研究ならびにドイツ語圏の文化現象全般に関する総合的知識を獲得し、この知識を基盤に当該領域に関する問題を発見・設定する力。

資質・能力目標(3)： ドイツ語固有の論理構造およびドイツ語文化圏の歴史的、文化的特性を理解することによって、日本語および日本文化を相対化する視点を獲得し、自文化に関する反省的思考を深め、これを通じて得られた異文化リテラシーを生かし、社会人として国際社会に貢献する力。

資質・能力目標(4)： 明確な問題意識を持ち、自ら発見・設定した問題の解決に至る思考の過程を、先行研究を踏まえて日本語またはドイツ語で論理的に記述した卒業論文を作成する力。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文（卒業試験）は、次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科独文学専攻（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、第2学年においては専門研究の基礎力を培う専門教育科目、第3・第4学年においては学生個々の関心領域に応じた学修が可能となるよう多様な専門教育科目を、必修科目、選択必修科目、選択科目の3種に分類して設置し、これらから構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1)独文学専攻の専門教育課程においては、文学部共通語学カリキュラムを通じて獲得された技能をさらに発展させ、より高度な言語運用能力を養成するため、第2学年以降、「読解」、「文章

作成」、「聴解・口頭表現」にそれぞれ重点を置いた科目群をレベル別に多数設置する。すべて少人数による演習形式の授業であり、かつドイツ語母語話者の担当率も高くする。これらの科目を段階的に継続して学修することにより、言語運用の四技能がバランス良く修得できるよう配慮する。

(2)ドイツ語学、ドイツ文学、ドイツ文化学の領域に関しても、3年間の専門教育課程を通じ、段階的に専門的知識を深めることができるようカリキュラム設計を行う。

(3)専門教育課程における学修の成果を卒業論文の形で結実させるため、第3学年・第4学年にゼミナールを設置する。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレースメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)： 文法構造の理解と基本的な語彙の習得を基盤に、四技能（読み、書き、聴き、話す）のバランスがとれたドイツ語運用能力を身につけ、これを通じてドイツ語母語話者との活発な異文化コミュニケーションを実践する力。

→ 総合教育課程に設置の必修外国語科目「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」（第1学年）、「ドイツ語Ⅲ・Ⅳ」（第2学年）を通じて育成された基礎的運用能力に加え、独文学専攻では、読解能力に重点を置いた「テキスト研究中級Ⅰ・Ⅱ」、「テキスト研究上級Ⅲ・Ⅳ」、文章作成能力に重点を置いた「ドイツ語作文初級Ⅰ・Ⅱ」、「ドイツ語作文中級Ⅰ・Ⅱ」、「聴き・話す」インターアクションに重点を置いた「コミュニケーション・ドイツ語中級Ⅰ～Ⅳ」、「コミュニケーション・ドイツ語上級Ⅰ～Ⅳ」（ドイツ語母語話者が授業担当）を設置し、定められたカリキュラムに沿って学修を進めることで四技能のバランスがとれたドイツ語運用能力と、異文化コミュニケーション能力が着実に体得できるよう配慮する。

資質・能力目標(2)： ドイツ語および日本語による関連文献を通じて、ドイツ語学・文学研究ならびにドイツ語圏の文化現象全般に関する総合的知識を獲得し、この知識を基盤に当該領域に関する問題を発見・設定する力。

→ 第2学年においては、文学史の概括的知識（「ドイツ文学史Ⅰ・Ⅱ」）や文学テキスト読解のストラテジー（「テキスト研究中級Ⅰ・Ⅱ」）、ドイツ語学・文学・文化研究のアカデミック・リテラシー（「ドイツ研究の技法Ⅰ・Ⅱ」）等を修得する科目群を配置し、第3学年・第4学年においては、ドイツ言語学（「ドイツ語学研究Ⅰ・Ⅱ」「ドイツ語学演習Ⅰ・Ⅱ」）、中世ドイツ文学・文化（「中世ドイツの言語と文化Ⅰ・Ⅱ」）、近代・現代ドイツ文学（「テキスト研究上級Ⅰ・Ⅱ」）近代・現代ドイツ文化（「ドイツ文化研究Ⅰ・Ⅱ」「ドイツ文化史Ⅰ・Ⅱ」「近代ドイツ研究Ⅰ・Ⅱ」）、近代・現代ドイツ思想（「ドイツ思想研究Ⅰ・Ⅱ」）、ドイツ演劇学・メディア学（「演劇・メディア研究Ⅰ・Ⅱ」）、現代ドイツ事情（「現代ドイツ研究Ⅰ・Ⅱ」）等に関する多彩な科目群を、講義形式・演習形式共に多数設置し、学生が個々の関心ないし問題意識に応じて学修を設計できるよう配慮する。また、これら専門の講義科目・演習科目の一部をドイツ語母語話者である専任教員・有期教員・非常勤教員の担当とすることで、ドイツ語によるプレゼンテーションや議論の実践的学修を可能とし、ドイツ語圏の大学への留学を希望する学生にとって格好の訓練の

場とする。

資質・能力目標(3)：ドイツ語固有の論理構造およびドイツ語文化圏の歴史的、文化的特性を理解することによって、日本語および日本文化を相対化する視点を獲得し、自文化に関する反省的思考を深め、これを通じて得られた異文化リテラシーを生かし、社会人として国際社会に貢献する力。

→ ドイツ言語学分野の科目群（「ドイツ語学研究Ⅰ・Ⅱ」「ドイツ語学演習Ⅰ・Ⅱ」）は言語コミュニケーションの媒体としてのドイツ語を多様な視点から客体化しつつ探究することによって、同時に日本語および日本文化を相対化する視座を与える。また、日本人教員・ドイツ人教員によって提供される上記の多彩な専門教育科目は、それぞれに二つの言語文化圏について不断の反省的思考を刺戟し促進する。加えて異なる環境を通じて高度な異文化リテラシーを身につけるために、慶應義塾大学国際センターによって提供される留学プログラム、さらには学内外の各種留学制度などを活用した海外の大学への短期留学または1年間の留学を推奨する。海外の大学への正規留学によって取得した単位を、単位数を限って卒業要件に含めることを認める。こうして育まれた異文化リテラシーは、流動化がますます顕著になる今日の国際社会において、独文学専攻卒業生が確固たる立脚点と柔軟な思考を兼ね備えた社会人として活躍するための前提を形成するものと期待される。

資質・能力目標(4)：明確な問題意識を持ち、自ら発見・設定した問題の解決に至る思考の過程を、先行研究を踏まえて日本語またはドイツ語で論理的に記述した卒業論文を作成する力。

→ 学生は第2・第3・第4学年と学修を進めるに従って、ドイツ語圏文学・語学・文化についての幅広い基礎知識およびドイツ語圏研究の作法を基盤に、上記の専門教育科目群からそれぞれの関心に応じた領域の科目を主体的に選び、重点的かつ批判的に学修する。そして最終的には自ら問題を設定してこれを深く追究し、その成果を卒業論文にまとめあげる。卒業論文の作成に当たっては、「ドイツ語学文学ゼミナールⅠ～ⅩⅥ」を第3・第4学年の4学期に亘って履修する。第3学年においては複数教員の「ゼミナール」を履修し、問題の設定から解決に至る流儀や方法に複数の視点があることを学ぶと同時に、自分の取り組むべき問題設定を行う。第4学年においては第3学年で履修した「ゼミナール」のなかから、卒業論文指導教員担当の「ゼミナール」を選んで履修し、当該教員との活発な議論を通じて、設定した問題の論理的展開・学問的検証を実践し、3年間の独文学専攻専門教育課程における学修の総決算としての卒業論文を完成させる。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1) 慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2) 先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3) 与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4) 現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5) 文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な考査によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。

【人文社会学科・仏文学専攻・学士（文学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、フランスとフランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史を中心とする広大な領域を対象とし、高度で実践的なフランス語運用能力の習得と、多様化する国際社会で求められる教養の獲得を目標とする。加えて、教育課程において定める要件を満たした学生に対し、学士（文学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)： 仏文学専攻での学びを通して、日本の文化を相対的視点から捉え直すとともに、フランス語圏の文化のみならず、広く異文化に対して関心と理解を示す社会人となり、多様化する国際社会に貢献する力。

資質・能力目標(2)： フランス語の4技能（読む、書く、聞く、話す）をカバーする総合的な語学力を獲得し、フランス語で発信されるさまざまな情報を正確に理解するとともに、フランス語話者と円滑なコミュニケーションを行う力。

資質・能力目標(3)： 日本語およびフランス語の文献の読解、分析を通して、フランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史に関する総合的な知識を習得し、それをもとに日本語あるいはフランス語で自分の考えを論理的かつ効率的に説明する力。

資質・能力目標(4)： 自ら関心を持つテーマを設定し、関連する先行研究を批判的に検証しながら、独自の視点で考察を掘り下げた卒業論文を執筆する力。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科仏文学専攻（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1)必修科目では、主に2年生を対象とする基礎コースと、主に3・4年生を対象とする専門コースを設置する。それぞれのコースは、講義科目と演習科目から構成される。
- (2)基礎コースでは、総合的なフランス語力を養成すると同時に、フランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史にかかわる広範な知識を伝える。専門コースでは、フランス語の堅実な実践力を高めつつ、時代的にも主題的にも多岐にわたる科目によって、より専門的な知見、思考法、発表技術を教授する。
- (3)講義科目では、特定の主題について論じながら、学際的な、他に開かれた視点も提供して、知的探求心を刺激する。演習科目では、学生個々に積極的な参加を促し、それぞれの段階を踏んで分析力や文章力を研磨するよう指導する。
- (4)演習科目のなかでもフランス語フランス文学研究会を、学生が基礎コース、専門コース、講義科目、演習科目での学修を応用して、独自の課題を発見し、それについて説得力のある卒業論文をまとめる、集大成の場として位置づける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)： 仏文学専攻での学びを通して、日本の文化を相対的視点から捉え直すとともに、フランス語圏の文化のみならず、広く異文化に対して関心と理解を示す社会人となり、多様化する国際社会に貢献する力。

→ 主に講義科目において、フランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史への造詣を深めながら、それに隣接する他の文化圏や、翻って日本文化へも目を開かせ、世界の複雑な成り立ちを啓発する。

資質・能力目標(2)： フランス語の4技能（読む、書く、聞く、話す）をカバーする総合的な語学力を獲得し、フランス語で発信されるさまざまな情報を正確に理解するとともに、フランス語話者と円滑なコミュニケーションを行う力。

→ 中級から上級にいたる異なるレベルの語学科目を揃え、徹底した少人数授業によって、きめ細かな習得度把握に基づく指導を行い、また、そのようなフランス語学修の総仕上げとして海外留学を推奨し、補助する。

資質・能力目標(3)： 日本語およびフランス語の文献の読解・分析を通して、フランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史に関する総合的な知識を習得し、それをもとに日本語あるいは

フランス語で自分の考えを論理的かつ効率的に説明する力。

→ 主に演習科目において、多様な形式と内容の文献を対象として、精緻に読み込み、そこから独自の主張を導き出し、その主張を口頭あるいは文章で説得力をもって訴える、という一連の作業を課して、個々の自発的な取り組みを督励する。

資質・能力目標(4)：自ら関心を持つテーマを設定し、関連する先行研究を批判的に検証しながら、独自の視点で考察を掘り下げた卒業論文を執筆する力。

→ フランス語フランス文学研究会において、指導教員が各自の特性、長所、短所に適切に対応し、それとともに、全員がたがいの研究を評価し、批判し合える環境を醸成して、個の切磋と全体での協働を、独自性と普遍性を備えた卒業論文に結実させる。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な審査によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。

【人文社会学科・図書館・情報学専攻・学士（図書館・情報学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、個人や機関、団体などにより生産され記録された経験や情報、知識について、その流通・組織化・提供・利用・保存・制度など諸側面の基礎的な知識の学修を通じて、情報という観点から問題を発見し自ら解決できる資質の形成と総合的な能力の開発により、社会のさまざまな場面で幅広く活躍で

きる人材を育成することを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（図書館・情報学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)： 特定テーマから広範な分野にいたるまで文献と情報を検索、収集、分析する能力。

資質・能力目標(2)： コンピュータをはじめ情報機器・情報メディアを活用する情報処理能力。

資質・能力目標(3)： 図書館司書としての基礎的資質と情報専門職としての基盤形成。

資質・能力目標(4)： 日本語と英語による専門文献の読解能力。

資質・能力目標(5)： 効果的なプレゼンテーション能力および論理的な文章表現能力。

資質・能力目標(6)： 学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は以下の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科図書館・情報学専攻（学士：図書館・情報学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育法を組み合わせる教育を実施する。

- (1)基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。また、図書館・情報学専攻以外が設置する専門教育科目の履修を通して、幅広い視野と知識の習得を図る。
- (2)自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目、インターンシップ科目などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3)知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)： 特定テーマから広範な分野にいたるまで文献と情報を検索、収集、分析する能力。

→ 総合教育科目、必修語学科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能を身につけたうえで、専門教育科目において図書館・情報学にかかわる文献と情報を検索、収集、分析する基礎的な技能から、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標(2)： コンピュータをはじめ情報機器・情報メディアを活用する情報処理能力。

→ 専門教育科目において、情報処理、情報管理などの諸活動および情報サービスに必要な不可欠な情報検索と情報組織化の基本的な考え方と技術について、講義と演習を通して学修する。また、情報メディアの社会的制度、技術特性、人間の認知と行動を踏まえながら、情報メディアが社会で果たす役割について学修する。

資質・能力目標(3)： 図書館司書としての基礎的資質と情報専門職としての基盤形成。

→ 専門教育科目において、図書館や情報提供機関のサービスと運営を中心に、図書館司書等が必要とされる、社会において知識と情報を活用するための仕組みについて、講義と演習を通して学修する。

資質・能力目標(4)： 日本語と英語による専門文献の読解能力。

→ 必修語学科目での学修成果を踏まえ、専攻設置の専門教育科目において、図書館・情報学にかかわる日本語と英語による専門的な文献を読解する能力を講義および演習を通して育成する。

資質・能力目標(5)： 効果的なプレゼンテーション能力および論理的な文章表現能力。

→ 総合教育科目、必修語学科目での学習成果を踏まえ、専門教育科目、特に研究会において、所属する各専攻にかかわる基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標(6)： 学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

→ 第3学年から第4学年にかけて全員が専門教育科目の研究会に所属する。研究会の担当教員の指導のもと、課題設定から課題解決、さらに成果のまとめや報告までを含めた卒業研究を課す。卒業研究は、中間発表や最終発表を含めて、複数教員による審査および審査項目の標準化などの指導体制のもとで実施することにより、総合的な能力の育成を図る。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な考査によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。

【人文社会学科・社会学専攻・学士（人間関係学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、社会学および社会心理学、文化人類学の知識と方法ならびに問題意識を融合的に活用し、自立した市民および職業人として個人と社会のために協働できる人材の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)：社会学、社会心理学、文化人類学における主要な学説についての基礎的な理解を持ち、日本語や外国語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。

資質・能力目標(2)：社会学、社会心理学、文化人類学のそれぞれの視点から、さらにはそれらを融合した視点から、人間、社会、文化にかかわる諸事象を捉え、分析し、説明する学問的成果についての理解を持ち、それを社会問題の解決に応用する力。

資質・能力目標(3)：質的・量的社会調査の方法を理解し、複数の方法を用いて資料の収集・整理・分析・解釈を行い、その内容について効果的なプレゼンテーションを行う力。

資質・能力目標(4)：以上のような知識に加え、卒業論文コースの学生は、人間、社会、文化にかかわる諸事象の様々な側面を探究し、その探究の過程と結果について適切に表現する力、卒業試験コースの学生は、社会学、社会心理学、文化人類学の学問的成果について、定められた一定基準以上の知識を身につけ、それを活用する力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文（卒業試験）は次の審査項目を満たすものとする。

卒業論文コース

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

卒業試験コース

1. 社会学、社会心理学、文化人類学の学問的成果について、定められた一定基準以上の知識および活用能力を身につけている。
2. 与えられたテーマに関して、社会学、社会心理学、文化人類学の知識をもとに、論理的に表現できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科社会学専攻（学士：人間関係学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、必修科目と選択科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1) 基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、社会学、社会心理学、文化人類学の概論科目に加え、より専門的な各論科目や多様な特殊科目を設置する。
- (2) 自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、学説および理論を学べる科目に加え、主要な社会調査法を身につける科目を置き、調査やフィールドワークなどにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3) 知的探究への動機づけと実践力を育成するため、学生一人ひとりの問題意識や関心を対話的に支援し、学修した知識を自ら応用し、新しい知見を見出すことができる多彩な演習科目を設置する。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)：社会学、社会心理学、文化人類学における主要な学説についての基礎的な理解を持ち、日本語や外国語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。

→ 総合教育科目、必修語学科目で身につけた学習の基礎的技能、言語運用能力をふまえ、必修科目において、社会学、社会心理学、文化人類学における主要な学説についての基礎的な知識を着実に身につけるための科目を置き、より専門的な学習を行うための基盤を形成する。

資質・能力目標(2)：社会学、社会心理学、文化人類学のそれぞれの視点から、さらにはそれらを融合した視点から、人間、社会、文化にかかわる諸事象を捉え、分析し、説明する学問的成果についての理解を持ち、それを社会問題の解決に応用する力。

→ 必修科目での学修成果をふまえ、選択必修科目、選択科目において、人間、社会、文化の諸事象に関する社会学、社会心理学、文化人類学からの学問的成果を修得するための幅広い科目を置き、3つの学問に対する個別的学习のみならず、2つ以上の学問分野の融合的な理解を導き、社会問題への多角的な応用力を養う。

資質・能力目標(3)：質的・量的社会調査の方法を理解し、複数の方法を用いて資料の収集・整

理・分析・解釈を行い、その内容について効果的なプレゼンテーションを行う力。

→ 必修科目において、人間、社会、文化の諸事象に関する様々な資料を収集・整理・分析・解釈するための妥当で信頼できる方法および技法を学び、演習できる科目を置き、自ら立てた問いを実証的に探求し、プレゼンテーションする機会を設ける。

資質・能力目標(4)： 以上のような知識に加え、卒業論文コースの学生は、人間、社会、文化にかかわる諸事象の様々な側面を探求し、その探求の過程と結果について適切に表現する力、卒業試験コースの学生は、社会学、社会心理学、文化人類学の学問的成果について、定められた一定基準以上の知識を身につけ、それを活用する力。

→ 卒業論文コースとして、3年次と4年次においては、より限定的な領域における具体的な問題をめぐり、対話的、実習的、実践的に学習できる演習科目を置き、卒業論文の作成を支援していく。また、卒業試験コースの学生に対しては、4年次において、特定の専門領域を自覚的に選び、それを自らの専門として主張できるよう、一定基準以上の知識および活用能力を担保できる履修指導を行っていく。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な審査によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。

【人文社会学科・心理学専攻・学士（人間関係学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、心や行動を科学的に捉え、社会における人々の行動や反応を客観的に把握し、その背後にある原因や機構を深く理解することのできる人材の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)： 科学的視点による心や行動の捉え方、さまざまな現象の数値化、データ解析方法などの基礎を身につける。

資質・能力目標(2)： 実験心理学に関する諸分野における専門的な基礎知識を身に付けるとともに、それらの実践・臨床応用的な視点を学ぶために、実験心理学以外の心理学関連科目の履修を通して、心をより俯瞰的な視野から捉えるスキルを修得する。

資質・能力目標(3)： グローバルな人材育成を目指し、国際的なジャーナルに掲載される論文を読み込む能力や、そこで必要とされる高い思考力を身につける。

資質・能力目標(4)： 研究会や発表会におけるディスカッションを通して高いレベルのプレゼンテーション能力を身につける。

資質・能力目標(5)： 卒業論文の作成を通して、社会において役立つ、計画を立案し管理、実行する方法を学び、文章表現力や構成力を修得する。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科心理学専攻（学士：人間関係学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、アクティブラーニングや PBL などの教育法を組み合わせ教育を実施する。

- (1) 基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。
- (2) 自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目、実験科目などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3) 知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際

的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)： 科学的視点による心や行動の捉え方、さまざまな現象の数値化、データ解析方法などの基礎を身につける。

→ データ解析能力や実験技法の基礎を学ぶ専門教育科目を組み合わせることで履修することにより、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。

資質・能力目標(2)： 実験心理学に関する諸分野における専門的な基礎知識を身に付けるとともに、それらの実践・臨床応用的な視点を学ぶために、実験心理学以外の心理学関連科目の履修を通して、心をより俯瞰的な視野から捉えるスキルを修得する。

→ 心理学に関する専門教育科目を組み合わせることで履修することにより、心理学の基礎および応用的な視点を育む。また、心理学専攻外の専門教育科目等の履修も可能とし、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標(3)： グローバルな人材育成を目指し、国際的なジャーナルに掲載される論文を読み込む能力や、そこで必要とされる高い思考力を身につける。

→ 総合教育科目、必修語学科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能、着実な言語運用能力を身につけ、専門教育科目においてさらなる応用力を養う。

資質・能力目標(4)： 研究会や発表会におけるディスカッションを通して高いレベルのプレゼンテーション能力を身につける。

→ 主として専門教育科目の研究会において、各自の研究テーマを探求し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究課程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

資質・能力目標(5)： 卒業論文の作成を通して、社会において役立つ、計画を立案し管理、実行する方法を学び、文章表現力や構成力を修得する。

→ 専門教育科目の研究会や担当指導教員による指導を通じて、各自の卒業研究を立案・管理・実行する方法を学び、卒業論文にかかるディスカッションやフィードバックを通じて文章表現力や構成力を養う。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

(1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。

(2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。

(3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。

(4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。

- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な考查によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。

【人文社会学科・教育学専攻・学士（人間関係学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、「教育」という視座から人間と社会の諸問題を学問的に探究することのできる人物の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)： 教育に関する諸問題を多角的に探究するための基礎教養として、人文科学・社会科学・自然科学に関する基本的知識と、海外の様々な学問的知見に学ぶために必要な語学力を身につけている。

資質・能力目標(2)： 教育学の基礎に関する概括的知識とともに、教育学の主軸分野である教育哲学、教育史学、比較教育学、教育心理学に関する基本的知識を獲得している。

資質・能力目標(3)： 教育に関する諸問題を学問的に探究するための方法論（哲学や歴史学から自然科学の方法論に至る多彩なアプローチ）の基礎を身につけている。

資質・能力目標(4)： 研究会での共同研究や各自の卒業論文研究などを通して、「教育」という視座から考察すべき学問的問いを自らの関心に即して設定し、人間と社会の様々な問題の探究や解明を試みている。

資質・能力目標(5)： 学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力を身につけている。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確であり、教育学上重要な問題について批判的に検討している。
2. 教育学上重要な主要理論、研究遂行に不可欠な先行研究を踏まえている。

3. 卒業論文の研究 방법이、教育に関する諸問題を学問的に探究し、自身の設定した目的を達成するために適切かつ妥当である。
4. 卒業論文の内容が論理的で一貫している。
5. 論文の形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科教育学専攻（学士：人間関係学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1) 基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得をめざし、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。
- (2) 自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目、実験科目などにおいて、アクティブラーニング、フィールドワーク、課題解決型学習を拡充する。
- (3) 知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)： 教育に関する諸問題を多角的に探究するための基礎教養として、人文科学・社会科学・自然科学に関する基本的知識と、海外の様々な学問的知見に学ぶために必要な語学力を身につけている。

→ 必修語学科目、総合教育科目のほか、専門教育科目として「教育学原典講読」（2年次進級条件科目）、「教育学文献研究」（日本語、英語、ドイツ語、フランス語による文献・史資料研究法の修得）を設置し、基本的知識と語学力を養う。

資質・能力目標(2)： 教育学の基礎に関する概括的知識とともに、教育学の主軸分野である教育哲学、教育史学、比較教育学、教育心理学に関する基本的知識を獲得している。

→ 専門教育科目として「教育学概論」（2年次進級条件科目）、教育学の主要な学問領域を学修するための科目として「教育学史」（教育哲学分野）、「教育史」（教育史分野）、「比較教育学」（比較教育学分野）、「教育心理学概論」（教育心理学分野）を設置し、教育に関する基本的・概括的知識を習得する。

資質・能力目標(3)： 教育に関する諸問題を学問的に探究するための方法論（哲学や歴史学から自然科学の方法論に至る多彩なアプローチ）の基礎を身につけている。

→ 専門教育科目として「教育研究法」及び「教育測定実験」（実験・調査・分析方法の修得）、

「教育学文献研究」（日本語、英語、ドイツ語、フランス語による文献・史資料研究法の修得）を設置し、教育学研究に関する専門的な方法論を習得する。

資質・能力目標(4)： 研究会での共同研究や各自の卒業論文研究などを通して、「教育」という視座から考察すべき学問的問いを自らの関心に即して設定し、人間と社会の様々な問題の探究や解明を試みている。

→ 専門教育科目として、教育哲学、教育史、比較教育学、教育心理学の4分野に関わる「教育学特殊」、「教育学演習」及び「教育学研究会」（3・4年次学年指定科目）を設置し、教育学上重要な諸理論についてより専門的に理解し、人間と社会にかかわる諸問題の探究や解明を試みる機会を設ける。

資質・能力目標(5)： 学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力を身につけている。

→ 専門教育科目として、「教育学演習」及び「教育学研究会」（3・4年次学年指定科目）を設置し、各自の研究テーマを探究し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な審査によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。

【人文社会学科・人間科学専攻・学士（人間関係学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の知識および方法論を修得しながら、人間についての総合的・多角的な理解を行い、現代社会における人間・社会・文化に関するさまざまな問題を分析・解決できる人材を育成することを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)：心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の理論と方法についての基礎知識を修得していること。

資質・能力目標(2)：人間行動についての定量的・行動科学的な分析と、定性的・質的な分析の両方を行いうる能力、それらの能力を用いて自分で具体的な問題を分析できる能力を修得していること。

資質・能力目標(3)：分析結果をわかりやすく他者に説明・提示し議論できるプレゼンテーション能力と、それらを文章化して表現できる論文作成能力を修得していること。

資質・能力目標(4)：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を修得していること。あるいは、卒業試験において、同等の内容を提示する能力を修得していること。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文あるいは卒業試験は、次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科人間科学専攻（学士：人間関係学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、人間科学基礎、人間科学研究法基礎、人間科学演習、人間科学特殊、人間科学研究会、人間科学卒業研究および必修語学科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1)人間を多角的にとらえるための認識論と方法論の基礎を学び、本専攻のカリキュラムの全体像を明らかにすると同時に、これ以降の専門教育科目の位置づけを与えるために「人間科学基礎」と「人間科学研究法基礎」の二つの必修科目を置く。
- (2)心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の理論と方法の基礎を学ぶために「人間科学諸領域Ⅰ（個人）」、「人間科学諸領域Ⅱ（対人）」、「人間科学諸領域Ⅲ（社会）」、「人間科学諸領域Ⅳ

(文化)」の四つの必修科目を置く。

- (3)人間科学に含まれる個別のテーマについて専門的な知識を修得すると同時に、自らの関心を深化させるための専門教育科目群として「人間科学特殊」を置く。またデータの収集と分析を演習形式で学ぶための「人間科学研究法」、文献の読み方を演習形式で実践的に学ぶ「人間科学演習」も設置する。
- (4)自ら問題を設定・分析し、結果を発表・議論するスキルを身に着けるために「人間科学研究会」を設置する。
- (5) 4 年次には学修成果を総動員し、「人間科学研究会」または「人間科学卒業研究」を通じて、学生が自らの関心に基づいて研究論文の作成を行う。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)： 心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の理論と方法についての基礎知識を修得していること。

→ 「人間科学諸領域Ⅰ（個人）」、「人間科学諸領域Ⅱ（対人）」、「人間科学諸領域Ⅲ（社会）」、「人間科学諸領域Ⅳ（文化）」を通じて各分野の理論と方法について基礎知識を修得する。

資質・能力目標(2)： 人間行動についての定量的・行動科学的な分析と、定性的・質的な分析の両方を行いうる能力、それらの能力を用いて自分で具体的な問題を分析できる能力を修得していること。

→ 「人間科学基礎」および「人間科学研究法基礎」を通じて、人間を定量的ならびに定性的なアプローチによって多角的にとらえるための分析法（認識論と方法論）を学ぶ。専門科目群（「人間科学特殊」「人間科学研究法」「人間科学演習」）を通じて、より専門的な知識と分析方法を学び、「人間科学研究会」または「人間科学卒業研究」における研究論文の作成を通じて、具体的な問題の分析能力を修得する。

資質・能力目標(3)： 分析結果をわかりやすく他者に説明・提示し議論できるプレゼンテーション能力と、それらを文章化して表現できる論文作成能力を修得していること。

→ 「人間科学研究法基礎」および「人間科学研究法」を通じて分析結果を理解しプレゼンテーションする能力の基礎を身に着け、「人間科学研究会」または「人間科学卒業研究」における演習を通じてプレゼンテーション能力を発展させる。それを踏まえ 4 年次の研究論文執筆によって、分析結果を文章化して表現する論文作成能力を修得する。

資質・能力目標(4)： 学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を修得していること。あるいは、卒業試験において、同等の内容を提示する能力を修得していること。

→ 4 年次の「人間科学研究会」または「人間科学卒業研究」を通じた研究論文の執筆によって修得する。

入学者の受入れに関する方針（アドミSSIONポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な審査によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。